

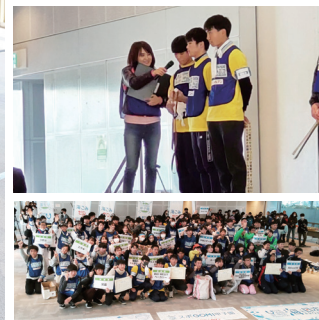


『スポGOMI甲子園2022』 全国大会準優勝！

山村 龍之介・臼坂 奏音・長谷川 喬一(2年生)

日時／2022年12月26日 会場／東京都隅田川エリア

主催：スポGOMI甲子園実行委員会 共催：日本財団 海と日本プロジェクト



チーム「BIG WESTペーカリー」は、2年連続で県大会を制し、「スポGOMI甲子園2022」全国大会に愛媛県代表として出場しました。前年度優勝チームとして参加チームを代表して選手宣誓を行い、2連覇を目指して競技に臨みました。そして、昨年度よりも多くのポイントを獲得し、準優勝という特筆すべき成績を残すことができました。惜しくも連覇はなりませんでしたが、競技前の念入りな事前準備からチームワークのよさを発揮して精一杯取り組みました。この活動により、全校生徒が海洋ごみ問題に目を向ける契機になってくれればと思います。次回大会以降も後輩たちの活躍を期待しています。



『第5回 全国高校生 SRサミット～FOCUS～』への参加(オンライン)

三好 由真(2年生)・相原 光希・山中 咲季(1年生) 他

日時／2022年11月12日・13日 会場／立命館宇治中学校・高等学校

主催：立命館宇治中学校・高等学校

SRサミットは、国際貢献や地域貢献活動を学校等の教育活動の中で発展・継続させていくために、参加グループごとに設定したプロジェクトの課題について他校の生徒と協働で取り組み、その解決策を検討することを通して、互いに学び高め合うことを目的とする大規模な協議の場です。本校からは12名の代表生徒(その他の生徒はオンライン参加)が参加し、グループごとにSDGsに関わるプロジェクトの発表が行われ、社会の一員として、理想とする社会について考え、その課題解決に向けてどのような社会貢献ができるかを提言しました。FOCUSを通して、今後は各校で実際のアクションに繋げていくことと同時に、産学協働プロジェクトへと発展させることも期待されます。

国際会議『GSG(Global Simulation Gaming)』への参加

岡田 愛生・山中 咲季・山村 龍之介・武智 百香・白石 琴美(2年生)
ヴァラタン アーサー 風五・マニックス ケイティ 織衣(1年生) マリエル・ガブタン(留学生)

日時／2023年1月24日 会場／京都先端科学大学附属中学校・高等学校

主催：京都先端科学大学附属中学校・高等学校

国際会議「Global Simulation Gaming(以下「GSG」)」が開催され、本校からも8名の代表生徒が参加しました。GSGとは、「国際関係バーチャルリアリティゲーミング」のことで、参加者全員がそれぞれのアクター(国際関係における主体)になりきって、国際政治や国際経済の動きの中で、課題設定、政策立案、交渉、条約締結、政策行使という一連のプロセスを擬似的に体験しました。今年度は「Emergency Resolution on the Climate Refugee Crisis」(「気候難民の危機に関する緊急決議」)をテーマとして実施され、本校生徒はイギリス・ドイツの2チームに分かれて他国と交渉などを行いました。参加者が一つの共通テーマの下、他校生徒と協働しながら課題設定・政策立案・交渉を行うことで、現実の国際社会についての理解を深め、国際レベルの外交交渉を経験することができました。多角的な視点から国際情勢を俯瞰し、行動に移していく力を育む取組となりました。



高校生国際会議『SDGs Youth Summit』の開催

日時／2022年10月15日・16日 会場／愛媛大学附属高等学校

主催：愛媛大学附属高等学校

本校が主催する高校生国際会議「SDGs Youth Summit」を2日間に渡って開催しました。初日は体育館で緊急避難時に使える段ボールベッド作成、バーションイラスト選手権があり、楽しくアイスブレイクを行いました。午後は対面(日本語)とオンライン(英語)でSDGsに関する講義を受け、その後、テーマごとの分科会(環境、農業、教育、ジェンダー、私たちのSDGs【英語】)に分かれて自分たちが取り組んできたSDGs活動の発表を行い、外部の有識者の方からアドバイスをいただきました。2日目は発表のまとめを行い、宣誓文を作成しました。今後は、発表した活動をさらに発展させていくとともに、作成した宣誓文を関係各所へ送付します。



現役の生徒たちに聞きました！

愛媛大学附属高等学校って、どう？



愛媛大学の留学生との交流事業「Eカフェ」で国際感覚を養えるなど、附属高校ならではの特色ある体験が多い。

国内や海外の提携校との交流が多く、大きな視野で物事を捉えられるようになってきていると感じる。

1人1台の端末を所有しているため、授業や家庭学習で活用する機会が多く、効率的な学習が進められている。

校内外のフィールドで、自分がやりたい分野に挑戦できる環境が整っていることが魅力的だと思う。

生徒一人一人の現状を常に気にかけてくれ、丁寧な声掛けをもらえるので、安心して学校生活を送れている。

愛媛大学との高大連携授業がとても充実しており、自分たちの進路選択にとてもプラスになっていると感じる。



◎公共交通機関
JR予讃線「松山駅」→伊予鉄バス8番線(東野線)「農学部前」下車
[所要時間:23～24分・運賃:350円]

◎自動車の場合
松山自動車道「松山IC」→国道33号線・松山市内方面→
環状線・天山交差点(右折)→湯渡橋・手前(右折)→愛媛大学農学部

愛媛大学附属高等学校

〒790-8566 愛媛県松山市榑林3丁目2番40号
Tel:089-946-9911 Fax:089-977-8458
URL: <http://www.hi.ehime-u.ac.jp/>



愛媛大学附属高校HP



愛媛大学附属高校 WWL専用HP



愛媛大学附属高校 公式Instagram



SDGs x School

SDGsへの取組についての学習がスタートした際に生徒が作成したロゴです。学校内でのSDGsについての学習を行っていることを示しています。



「Mr.Sheep」
愛媛大学附属高校
マスコットキャラクター

校内施設見学につきましては、随時受け付けますのでご連絡ください。

令和3年度～令和6年度
文部科学省「研究開発学校」指定



愛媛大学附属高等学校
EHIME UNIVERSITY SENIOR HIGH SCHOOL

令和4年度の実績と取組
(一部抜粋)

さまざまな研究を発表し、評価されています。

第11回イオンエコワングランプリ 内閣総理大臣賞 受賞！

『海洋マイクロプラスチック汚染の実態調査と解決に向けての活動』

村上 陽向・近藤 百々花(2年生)
門田 未来・廣江 実采・蔵野 美結(1年生)
日時／2022年12月3日 会場／東京都・毎日ホール(毎日新聞社内)
共催：イオンワンパーセントクラブ・毎日新聞社
後援：内閣府・文部科学省・環境省

「第11回イオンエコワングランプリ最終審査会」の研究・専門部門で理科部ブラガールズが1位の「内閣総理大臣賞」を受賞しました。最終選考会には提出レポートによる一次選考・二次選考を通過した12校(普及・啓発部門と研究・専門部門に各6校)が出場し、本校からは2年生の2名が参加して4分間の発表と7分間の質疑応答を行いました。閉会式では、プレゼンターの山田美樹環境副大臣から「内閣総理大臣賞」の賞状と副賞の目録を授与されました。発表会の後には、参加校によるSDGsに関するワークショップが行われ、活発な意見交流をすることができました。



サイエンスキャッスル中四国大会
優秀賞 受賞！
『瀬戸内海のマイクロプラスチック汚染の対策に向けて』
村上 陽向・近藤 百々花(2年生)
門田 未来・廣江 実采・蔵野 美結(1年生)
日時／2022年12月10日 会場／岡山コンベンションセンター
主催：中国銀行・山陽新聞社・リナビス

「サイエンスキャッスル2022中四国大会」に理科部ブラガールズが出場し、口頭発表で優秀賞を受賞しました。「サイエンスキャッスル」は中高生の科学研究の発表の場として10年前からリナビスが開設し、他に関東大会、関西大会、東北大会、九州大会があります。8月にオンラインによるキックオフ発表会で予選が行われ、審査により選ばれた12テーマが決勝の口頭発表に、他に65テーマがポスター発表に進みました。本校の発表は、審査員からの評価も高く、ポスター交流会場では大勢の中学生に関心を持ってもらうことができました。また、審査員との質疑応答を通して、今後の研究の進展に有効な示唆を得ました。今後は、愛媛大学との連携を活かして研究を発展させます。

JSEC2022(第20回高校生・高専生科学技術チャレンジ) 佳作 入賞！

『江戸から令和で生じた酢酸菌の進化
～継代培養実験による進化再現への挑戦～』
理科部：渡部 亜弥(2年生)
日時／2023年2月21日
主催：朝日新聞社

本校理科部の渡部亜弥さんが、JSEC2022(第20回高校生・高専生科学技術チャレンジ)で佳作入賞しました。JSECは、我が国の科学技術水準の向上を目的とし、全国の高校生・高等専門学校生を対象に世界大会(ISEF)予選を兼ねた高校生を対象とする最もハイレベルな自由研究コンテストです。研究テーマは「江戸から令和で生じた酢酸菌の進化～継代培養実験による進化再現への挑戦～」で、高校入学時より継代培養実験を継続し、粘り強く解析してきたものです。惜しくもファイナリストとはなりませんでした。現在も解析が続いています。



〔愛媛大学附属高等学校の歩み〕
平成20年 国立大学法人愛媛大学附属高等学校に改組(総合学科：1学年の生徒定員120名)
平成27年度～平成31年度 スーパー・グローバル・ハイスクール指定
令和 2年度～令和 4年度 ワールド・ワイド・ラーニングコンソーシアム構築支援事業「カリキュラム開発拠点校」

令和3年度～令和6年度 文部科学省「研究開発学校」指定

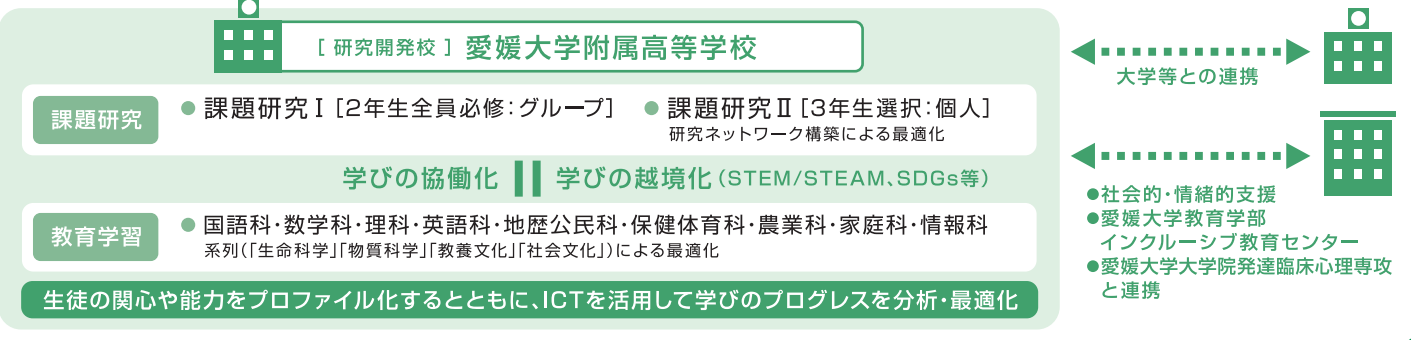
研究テーマ 個の特異な才能を見出すテラーメイド型教育内容、指導方法・評価方法の研究



「個の特異な才能を見出すテラーメイド型教育課程の開発」とは？

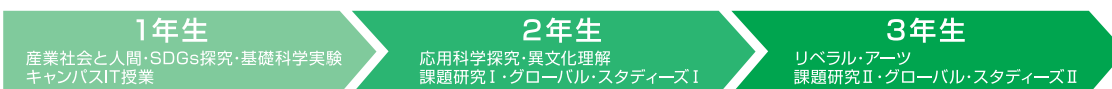
学びの個性化×学びの深化

～生徒の強みと弱みを包摂して伸長する教育を目指して～



教育活動① 高大連携プログラム

●充実した高大連携プログラム ●研究発表を行う機会も豊富



教育活動② 海外交流プログラム

●5年間に渡るスーパーグローバルハイスクール(SGH)事業
●海外研修、短期長期留学生の受け入れ



※写真は2019年の海外研修の様子です。

教育活動③ 特色ある取組

●田植え ●運動会 ●附属幼稚園芋掘り交流 ●特別支援学校との交流 ●みかん収穫実習 ●収穫祭 ●羊の毛刈り



研究開発実施内容① テラーメイド型教育の実現

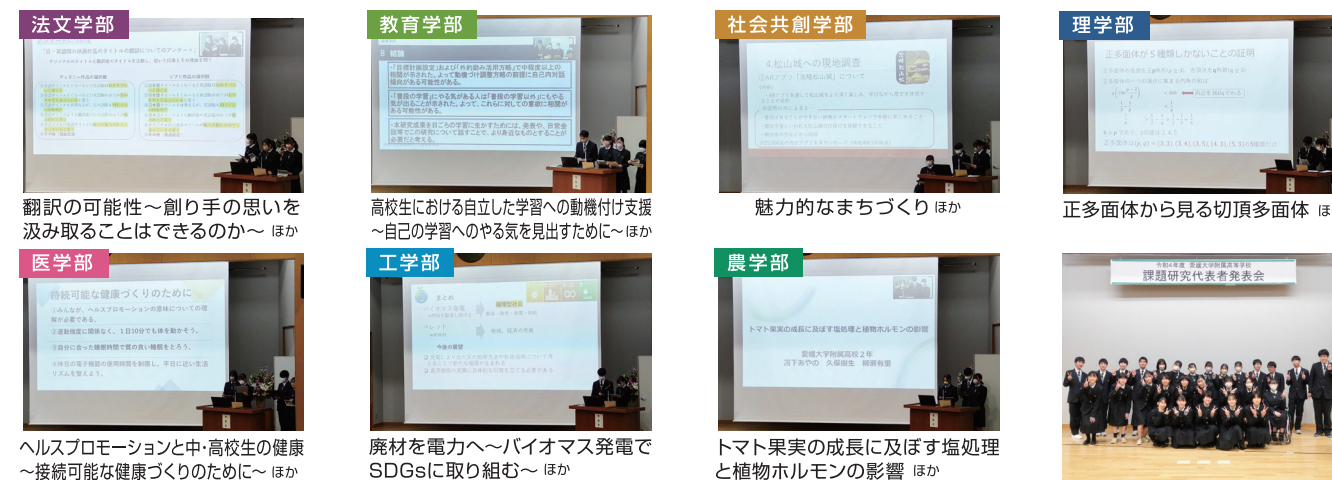
個々の生徒の「こころ」と「認知」を把握し、個に応じたアプローチを行います。



愛媛大学と連携し、テーマを選定、グループで研究・発表を行います。

研究開発実施内容② 高大連携教育プログラム：課題研究Ⅰ

- 対象：課題研究Ⅰ(2年生全員履修)
 - 指導形態：グループ研究とし、グループごとに高校の担当教員と愛媛大学の大学担当教員が指導する体制を取っています。令和4年度は51のグループが研究を行い、42名の愛媛大学全学部の教員より直接の指導を受けました。
 - 指導方法：個々人の興味関心に基づき、生徒が自身で研究テーマを選定し計画書を作成して行きます。その上で、研究グループを編成し、グループとしてのテーマを練り上げた上で、研究を進めていきます。
- ※2年次の「課題研究Ⅰ」の発展型として3年次には「課題研究Ⅱ」を選択履修することもできます。研究成果の学会発表や論文執筆、政策提案や商品開発等を目指します。



研究開発実施内容③ 高大連携教育プログラム：課題研究Ⅱ

- 対象：課題研究Ⅱ(3年生選択履修)
 - 指導形態：個人研究を主体としています。2年次の「課題研究Ⅰ」の発展型とし、研究成果の学会発表や論文執筆、政策提案や商品開発等を目指して取り組みました。「課題研究Ⅰ」に継続して高校の教員が指導を行う体制を取り、二人三脚で研究を行います。令和4年度は49名の生徒が選択履修しました。
 - 指導方法：個々人の興味関心に基づき、生徒が自身で研究テーマを選定し計画書を作成して行きます。
- 「課題研究Ⅱ」生徒による発表等の実績
- 第36回愛媛県高等学校総合文化祭 自然科学部門 優秀「絶滅生物における個体群動態の再現」
 - 第17回 高校環境化学賞(富山大会)奨励賞「絶滅危惧種ツツカサガイ保全にむけた飼育条件の探索」
 - 日本植物学会・生態学会・動物学会「生物系三学会中四国地区合同大会2022年島根大会 高校生ポスター発表会」生態分野(オンライン発表)最優秀賞<中四国1位>
 - 「江戸から令和で生じた酢酸菌の変化～半年で再現してみた～」
- 「課題研究Ⅱ」生徒アンケート結果より
- 「課題研究Ⅱ」を通じて身につけたことについて(複数回答可)
- | 項目 | 回答数 | 割合 |
|----------------|-----|-------|
| 課題設定する力 | 33 | 89.7% |
| 主体的に取組む力 | 31 | 89.7% |
| 解決方法を工夫する力 | 22 | 89.7% |
| 粘り強く挑戦する力 | 15 | 89.7% |
| コミュニケーション能力 | 24 | 89.7% |
| 目標を明確にする力 | 12 | 89.7% |
| 論理的思考、根拠に基づき判断 | 13 | 89.7% |
| ICT適切利用力 | 9 | 89.7% |
- 令和4年9月実施
調査対象：3年生選択者49名 回答数：44名 回答率：89.7%

生徒が主体となって、思考力、考察力、実践力を養います。

